

(3) 作業環境の改善対策

作業環境中のPCB及びダイオキシン類濃度が高いエリアにおける作業環境の改善対策について、比較的濃度の高い次のエリアについては、大阪PCB処理事業監視部会等でのご助言等を踏まえて順次対策を実施しています。

1) 大型解体室及び小型解体室

平成21年8月に切断装置付近、及び仕掛品の置き場周辺に活性炭吸着装置を設置しました。

平成22年3月に小型解体室のフライス盤周りの囲込みの仮設工事を行い、平成22年4月に高性能集じん装置を仮設置しました。その後、平成23年8月に小型解体室のフライス盤装置の囲込み、及びフライス盤の主軸周りの集中集塵方式の本設化工事を行いました。

平成23年8月にPCB等の蒸散を抑えるため空調設備を改善して室温低下を図りました。

大型解体室は、平成27年11月に管理濃度(0.01 mg/m³)を超えましたが、フライス盤からの切粉等が機械装置の下部や床面などに堆積し、通常では掃除が困難な箇所を定期検査時に重点的に徹底的な清掃と除染を実施しました。

また、平成30年5月に実施した測定において、小型解体室で管理濃度(0.01 mg/m³)を超過しました。測定の際、特にPCBが蒸散するような作業はなく、原因は明らかではありませんが、定期検査時に清掃と除染を行いました。

これらの対策を実施後、大型解体室、小型解体室ともに管理濃度(0.01 mg/m³)以下となっています。しかし、ダイオキシン類濃度については許容濃度(2.5 pg-TEQ/m³)を超過しているため、夏の定期検査時にも徹底的に清掃、除染を行いました。

2) VTR処理室

ダイオキシン類濃度につきましては、平成25年度に、未処理品の一時置場付近を中心にVTR搬入棚、VTRステーションテーブル、設備メンテナンス用グリーンハウスに局所排気装置等を設置した結果、平成25年11月以降、許容濃度(2.5 pg-TEQ/m³)以下を維持しています。

3) 大型抜油室、小型抜油室、タンク室

大型抜油室及び小型抜油室はダイオキシン類の許容濃度を超えていますので、引き続き定期検査時に、機器下部等作業時には実施の困難な場所も含めて清掃・除染を実施します。

タンク室については、平成27年夏の定期検査時にストレーナー改良による清掃作業の改善、局所排気装置の増強対策工事を実施した結果、ダイオキシン類の許容濃度以下を維持していました。しかし、平成29年5月の測定で4.3 pg-TEQ/m³と許容濃度を超過したため、夏の定期検査時に徹底的な清掃、除染を行った結果、平成29年11月の測定で1.1 pg-TEQ/m³と許容濃度以下になりましたが、平成30年5月の測定で2.8 pg-TEQ/m³、令和元年6月の測定でも2.9 pg-TEQ/m³と許容濃度を超過したため、大型・小型抜油室と同様に夏の定期検査時に徹底的な清掃、除染を行いました。

4) 蒸留室、中間処理室

両室ともダイオキシン類の許容濃度を超えています。機器の開放点検が主な汚染の原因になっていると思われませんが、両室とも1階から5階までグレーチングによる吹き抜け構造で、熱源となる蒸留塔が存在するため、室温の低減や作業時には清掃が困難な場所であることから、定期検査時に重点的な清掃・除染を実施しています。

5) 作業従事者の健康管理

弊社のPCB廃棄物処理施設では、作業従事者の健康管理として、労働安全衛生法に基づく特殊健康診断の実施に加え、血中PCB及びダイオキシン類濃度の測定を定期的に行い、目標値との比較による管理を行っています。

大阪PCB処理事業所においては、PCB廃棄物を取り扱うエリアで作業する作業従事者を対象に採血し、毎年6月を目途に血中PCBを測定しております。

平成30年度までの状況については、血中PCB濃度は、少し高くなった者もいましたが全作業従事者が健康管理の目安となる生物学的許容値である25ng/g血液を下回っていることを確認しました。

4. ヒヤリハット・キガカリの取り組み状況

ヒヤリハット・キガカリ活動は、事業所の安全レベル向上と危険のない職場づくりのために、積極的に取り組んでいます。作業時からの提出件数は(表-15)のとおりです。

作業員から提出された案件は、タスクチームで1件毎に内容を確認し、改善が望ましいと判断した案件については確実に改善を進めています。これらの実施状況については、毎月開催されるJESCO/運転会社で実施する安全衛生協議会で報告されています。

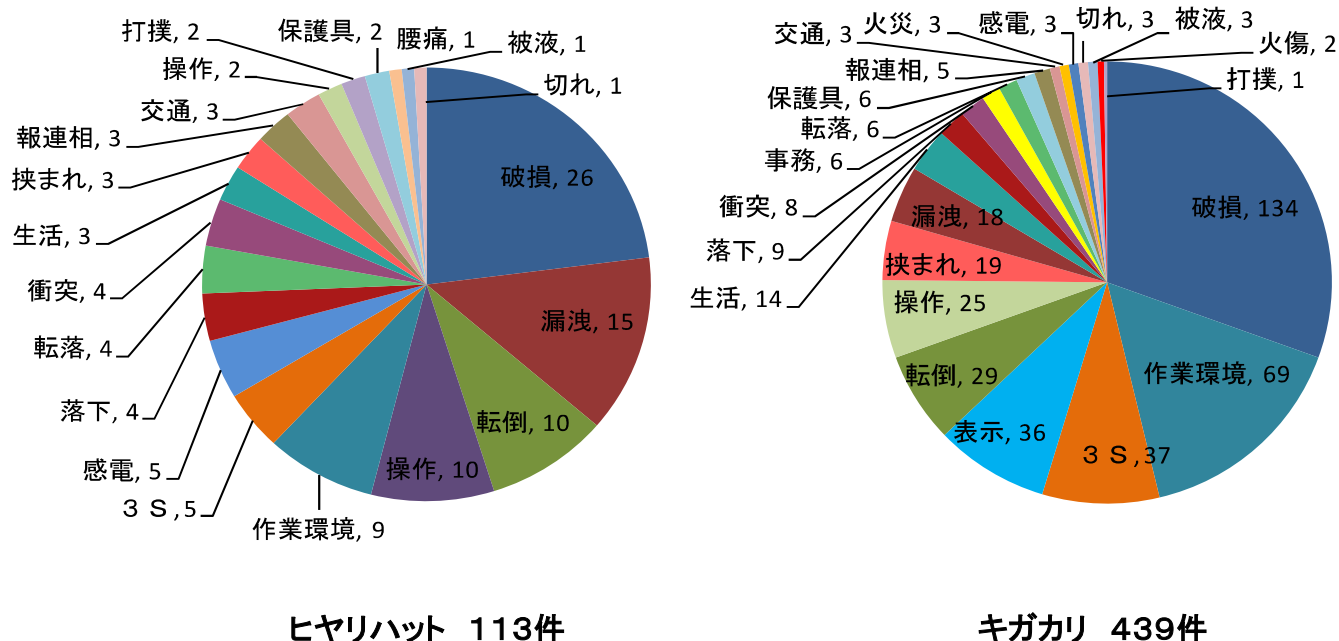
また、平成30年4月から令和元年11月の間に提出されたヒヤリハット・キガカリ案件の項目別分類は(図-4)に示すとおりです。

表-15 ヒヤリハット・キガカリの提出件数

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1*
ヒヤリハット	78	162	21	66	99	75	78	40	98	98	98	74	77	36
キガカリ	41	357	168	293	247	205	306	171	236	236	274	244	262	177

*R1年11月まで

図-4 ヒヤリハット・キガカリ項目別分類件数(平成30年4月～令和元年11月)



なお、労働災害の未然防止策をより有効的に進めるため、JESCO全事業所においてヒヤリハット案件のリスク評価を行いリスクが高いものについては、インシデントと位置付けて本社に報告し、各事業所に水平展開するとともにリスク低減策を講じています。